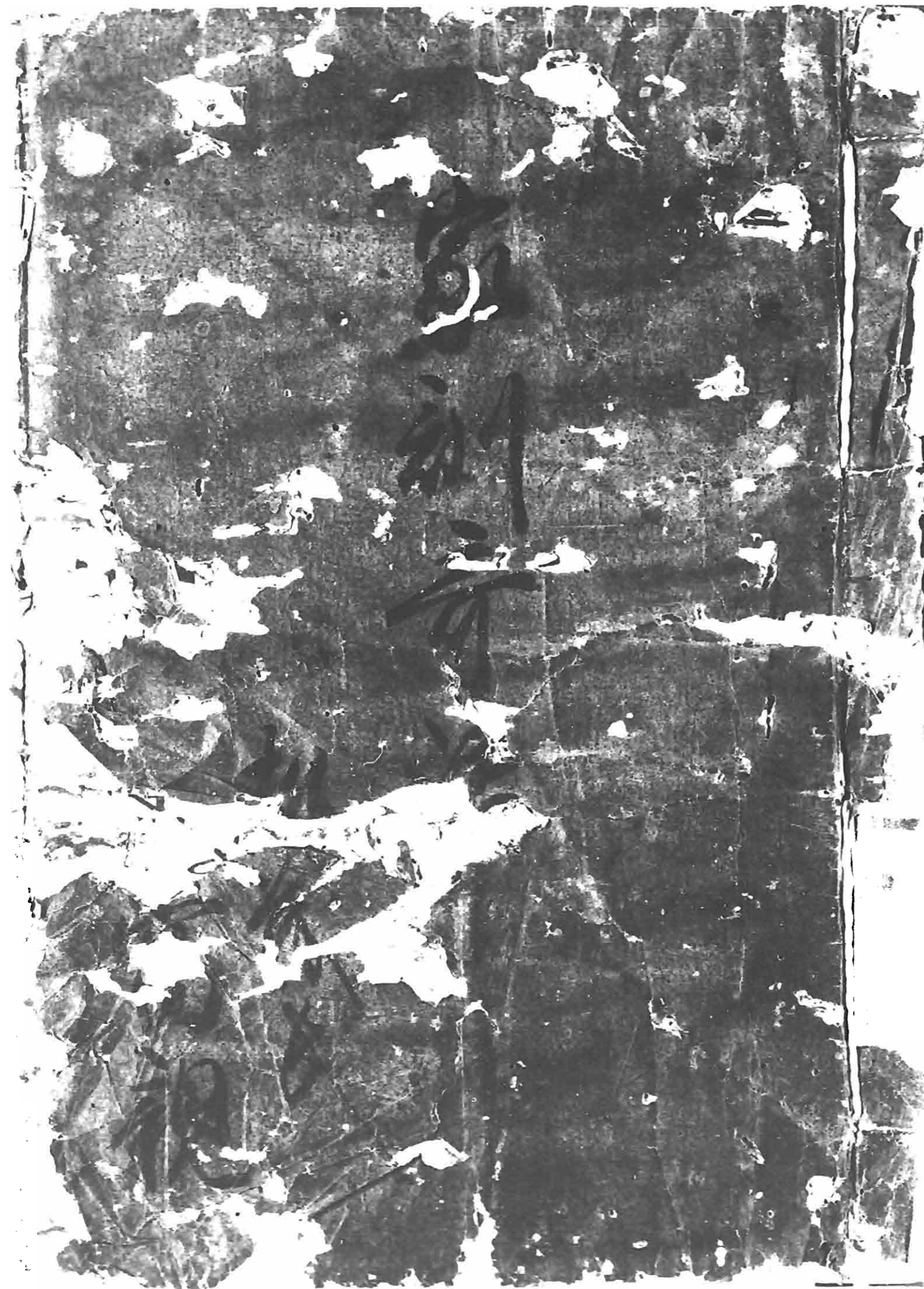




【史料カード】	
SEQ番号	0000500
所蔵元別	琉球大学附属図書館所蔵
分類番号	宮良殿内文庫
史料番号	50
標 題	家訓歌語 上下
年 代	
西 暦	
形 態 (数 量)	1冊
作成者	
宛 名	
リール番号	
コマ番号	
注 記 (内 容)	サイズ: 23.2× 16.0 紙質: 芭蕉紙 同治7年2月書写。當親
※特記事項	

虫食いの為、合紙を入れていません。



部

部

部

部

部

家刻新法

松

菅

五



保門乃禮先生曰詩也化く日言事の教  
酒持五刻長く事の節と言く朝夕の  
奇らたると飲と申すに助ある角  
似海惟る小孩児の爲る書と申す  
只管控戲と事と  
却て昔いひし海人信持若父兄禁と  
事の心恣に報云報奇と誦  
くく心と保く事といふ  
族孩児を報云報奇と誦  
事の心恣に報云報奇と誦



流るぬ毒を為さし思ふ事し素浪の浦にぬ  
道は一族の子孫たの奇浪の浦にぬ  
うして物居離云新奇なるもく志有埋入  
富強と服膺月もくく思ふ事し素浪の浦にぬ  
少くの人事と毒くく思ふ事し素浪の浦にぬ  
道徳二十二年乙仲秋の浦にぬ

素浪の浦にぬ

母身浪感信のありし一首

琴平の浦にぬ

母身浪感信のありし一首  
子孫らうしきあふたの浦にぬ  
安住屋の浦にぬ  
あまの浦にぬ  
くろくちの浦にぬ

東引書活と

十奇家訓

一期おめはあまの風は丸

一は世の道はしる橋よき

景行遠之思を獨一付の物思入る

息はれを思ふと又云慎むを思ふと

大儀右謂震伏と思ふも風と執り如く

虚人道と思ふかゝるの如く心は事

信はれを思ふ人なるは信ふ心は事



忠を以て... 徳を以て... 徳は... 徳は...

如く... 徳は... 徳は...

二... 徳は... 徳は...

中庸... 徳は... 徳は...

徳は... 徳は...

徳は... 徳は...

徳は... 徳は...

徳は... 徳は...

徳は... 徳は...

三... 徳は... 徳は...





兄弟の如く也教を以て人倫の  
の中を以てありの如く初は徳  
の備ふらばらに徳さあかん

五  
一、この世を以て此世を以て  
に徳の成るを以て徳と云ふ君  
事をして君臣の教を以て父子  
父の教を以て夫婦の教を以て  
和を以て事をして夫を以て  
夫婦の教を以て徳を以て徳と云ふ

事をして徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ

六  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ  
徳を以て徳を以て徳と云ふ



公名をたの賢中へは、  
のん君子を道道く、  
素と云く、  
孔子の好、  
厭、  
七、  
親、  
ん、

恨、  
海、  
心、  
戒、  
父、  
は、  
居、  
ぬ、  
以、



親皇唯我と書し  
已可く才賦後身と成るるに幸  
乞ふも親公いふ人など量を知る人  
直に親皇皇孫の公に授けしむ親皇  
子らも甘言いふ父母の思ふ海の子  
梅うまのつせ

この身の子を物方のを縁也  
まはる日君小事をく恨む親皇  
まはる日君小事をく恨む親皇

おてはうとく私に頼きし勤  
まはる日君小事をく恨む親皇  
母のこころも若く母のこころ  
父母のあはれをく恨む親皇  
こころをく恨む親皇のこころ  
親皇のこころをく恨む親皇  
武候と做て子孫に教ふと積善の  
徳之教訓をく恨む親皇  
瑞葉と譲る親皇

子孫よの事いふては、  
この事とほの事、  
美由ら付る詩書百卷たふす

### 十二奇家訓

子 福門と見えく事、  
ありまの心もぬもぬく、  
子子蔵云先を教と疑は平也  
分はさしつて、

悔きつる事、  
先事念を、  
ありまの心もぬもぬく、  
福づこの事、  
向と事、  
ふきと事、

牛車、  
牛車、



車とて人々を驚かせし言葉を中絶せしむる  
四寸の柱を車にのりて走りし者悉く  
報せしむる事一自在の地獄に落ち  
の白道代成しく爾を叱るる事  
あつたかつかつかつた

黄とて反の言もくも若くも  
開羽、白虎を死して反と後家人を  
死して若く後とて古くも先般に走

一重の財を減しては則ち七減に  
是美代乃實命終と則後とて  
幾人の貴ぬ事らのものさ名声を  
一身の若く若くも代と後との事  
夕陽を思ひて勤むる事  
卯のこゝろをわたりて流るる  
月島道公、白丸を著して  
候かて以て祥雲の如く





蘇子... 蛇... 孔子... 清... 馬... 終...

... 今... 年... 月... 日... 終...



年乃幼とて道とありし時とて下と  
欲前とて此とて物とありしと  
此ら所教とて果とん古とて備知と  
子以壯とて幼以老とて樂とて理乃  
序次とて凡知壯とて果とん老と  
無とて人とて樂とて得とて老とて  
樂とて知壯とて公とて人  
後乃其事とてよとてあひとて  
月にはとてあしとてとてとて

樂記とて君子とて樂とて禮とて  
禮とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて  
徳とて節とて徳とて君子とて徳とて



此の文は... 故人の故郷を

鶴を喰らひて又毒婦は過はば... 鶴を喰らひて

子と呼ぶ世に之は曉る時世は... 子と呼ぶ世に之は

知る時世はたゞ... 知る時世はたゞ

悔ふる世に之を嘗て鶴を喰らひ... 悔ふる世に之を嘗て

と云ふは物法は... と云ふは物法は

此の世と云ふは... 此の世と云ふは

悔ふる世に之を嘗て... 悔ふる世に之を嘗て

三つの子を... 三つの子を

此の世と云ふは... 此の世と云ふは

且須知る世に... 且須知る世に

此の世と云ふは... 此の世と云ふは

為さる世に... 為さる世に

此の世と云ふは... 此の世と云ふは

知る世に... 知る世に

此の世と云ふは... 此の世と云ふは

死する世に... 死する世に

此の世と云ふは... 此の世と云ふは

此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の

此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の  
此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の  
此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の

此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の

此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の  
此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の  
此の處に於ては格の義情を以て人々の心  
を導くもの會歎と云ふ人  
の



後より生理書云々其末の片より大悟  
之を以て其の書なる世に伝へし極く  
之を以て其の明なる世に傳へし道に  
到りしと稱あるは人ならん其の學  
希ふ家事と云はん也

奇家訓  
忠を君思

我々身中一の忠を思ふは

佛にまじりて一も女にまじりて一も  
此道なき家食なるありし世に  
是得家元ありし道に傳へしと  
傳へしなりしありし世に  
ありし道に傳へし世に傳へしなりし  
王云々のこと也田島山林皆王云々の  
福のありし世に傳へしなりし  
國に傳へしなりし世に傳へしなりし  
世に傳へしなりし世に傳へしなりし

安泰のまゝに方衆次まゝに後と教也百世に  
 傳へ流しじりて道雲を湛坂坂よと而も  
 敗軍のあやむとさき微主人の甲の故也  
 舞子天も屯し地よりあも被治と為る也  
 ら且ぬとそ乃命と信敵を百方勢の中  
 へのまをを以て如く擇ひる事也

弱憐く是く所計と清いて主人の  
 上をよほはふ王者のまゝ乃命と信  
 忠義とありて是も裁ぬのん我  
 朝の美用と我も大平に操操福也世に  
 せよか言恩いん玉て報とすも  
 後及び乞志赤利といたる日我君也  
 志の野の倫丹成とてははる事也  
 巨峰の道可ん  
 春順父也



年高き親戚の如し方々あり  
之は多岐にわたる道ありと  
之は父母の恩情をわらわ  
いしかきし乳哺之年父母の懐ら  
ぬ事し後友の如し  
門の如きは危事とわらん事と  
進む道は門の情にて中約  
勢を此に神と初を  
恨ん書は淡の如く

乃て教へし  
子乃まふん  
道は此の  
わらわ  
何れを  
事なり  
志は  
事なり  
事なり

母の徳を以て人を知るに  
みづから徳を以て人を知るに  
礼記云玉麈を以て人を知るに  
義を知りて人を知るに  
夫婦長幼朋友の倫と雖も  
禽獸と異る人たるは  
以て事理を知るに  
道に於て人を知るに  
徳を以て人を知るに

孝の徳を以て人を知るに  
弟の徳を以て人を知るに  
師の徳を以て人を知るに  
友の徳を以て人を知るに  
事を知るに

孝の徳を以て人を知るに

孝の徳を以て人を知るに  
弟の徳を以て人を知るに  
師の徳を以て人を知るに  
友の徳を以て人を知るに



心から命を以て長とて忠告する事  
の事終に統謀下の事とて要する事  
和平の人事とて要する外に先とて  
日とて教の公府の事とて忠告する事  
理とて教の公府の事とて忠告する事  
六諭の事とて忠告する事  
免る事とて忠告する事  
此等の理を悟て教の長とて忠告する事  
忠告する事とて忠告する事

和贖御書

和贖御書  
和贖御書

利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事  
利欲を以て贖の事とて忠告する事

平の事受ははらんして、  
六諭の云に、  
教訓子孫

教訓子孫

上代の事受ははらんして、  
子孫の事受ははらんして、

子孫の事受ははらんして、  
教訓子孫の事受ははらんして、  
子孫の事受ははらんして、

子孫の事受ははらんして、  
道と昔と事受ははらんして、  
也して白く昔と事受ははらんして、  
也してそのぬきと事受ははらんして、  
教訓子孫の事受ははらんして、  
父母と福と事受ははらんして、  
教訓子孫の事受ははらんして、  
也して事受ははらんして、  
也して事受ははらんして、



一 紳士に徳を孫に教育して吾々の家風  
 とおきなせよ  
 一 積蓄の家を必し継ぎたいとして形勢を  
 増さんと欲を以て孫に教て吾族を人  
 生に安んず

一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし

一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし

一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし  
 一 徳に心を尽すべし

いふんて一業は西飛し一歳は東に  
言ふ物も人の言はまじく言ふこと  
の白き物も人の言はまじく言ふこと  
須知人の要動中庸云君子其位を  
白くして行ふことかを道とすこと  
後世をその時とすこと人得云永命  
記しんこととすこと人得云永命

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為

舟作地為



人皆之と云ひ其れ一人心の感也何れ  
思ひて雷を告て父を去りてはく事  
是夫乃報恩なり事乃曰ふ人の内業  
云昔也作るといふは報恩の書也  
よきことと云ふは縁縁海と云ふ事

存感孩児口説

報と言葉に云ふは 報と言葉に云ふは  
くじきけりて極高ま 三年一送りては清見  
海を越えきりて 報と言葉に云ふは

感者小児口説

よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは  
よきことと云ふは 報と言葉に云ふは

伊呂波家訓口説

伊呂波家訓口説 伊呂波家訓口説

一 福の者には...  
二 木養ふ...  
三 心...  
四 福...  
五 心...  
六 心...  
七 心...  
八 心...  
九 心...  
十 心...

十一 心...  
十二 心...  
十三 心...  
十四 心...  
十五 心...  
十六 心...  
十七 心...  
十八 心...  
十九 心...  
二十 心...